



学校便り 6月号

# かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008  
発行 令和4年6月20日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP 学校ブログ



## 「戦争と平和」里の戦没者慰霊塔に思う

校長 永野 俊也

「戦争と平和」は、ロシアの文豪トルストイによる長編小説として知られています。当時ロシアの上流階級があこがれていたフランス貴族文化、その象徴的な存在であるナポレオン、その彼に攻められることになり、多くの貴族が混乱し没落していきます。翻弄される登場人物たち、そしてナポレオンを撃退したものの、焼け野原になった街で、主人公（トルストイ自身の分身とも言われます）は人として本当に大切なものは何なのか、私たちに問いかけてきます。彼が今生きて、ロシアの母体となったウクライナにロシア自身が侵攻している姿を見るとすれば何を思うのでしょうか・・・。

話を里の戦没者慰霊塔に移します。

里小裏の亀城跡に初めて登った時、驚いたことがあります。戦没者慰霊塔、各地にある碑と明らかに異なることがありました。それは、戦没者の氏名が戊辰の役から刻まれていることです。



戊辰の役 (明治元年～2年)	1名	日本が近代国家として産声をあげた明治元年より、「平和な世に至る礎となった方々の名を忘れずにいよう。」そういった里の方の思いを感じました。
台湾の役 (明治7年)	3名	
十年の役 (明治10年：西南戦争)	19名	名を見るとみんな子供たちの名に通じる里の名字です・・・ その碑文には、下のように刻まれています。また、昨年のふるさと・コミュニケーション科の学習で、5,6年生が学習した際、この碑の裏に回ると、今でも幾つかの遺影を見ることができることを知りました。
日清戦争 (明治27,8年)	4名	
日露戦争 (明治37,8年)	6名	
済南事変 (昭和3年：日中戦争前哨戦)	1名	
支那事変 (昭和12年～：日中戦争)	32名	
大東亜戦争 (昭和16～20年：太平洋戦争)	130名	

### 建立のことは

遠く戊辰の役に始まり台湾征伐、明治十年西南の役、二十七年、八年日清戦争、三十七、八年日露戦争とつづき済南事変、大東亜戦争と戦禍は世界大戦争にまで拡大、之等幾多の内戦、外戦に招集されて国家の為、尊き犠牲となつて、戦場に散華された、吾が里村一九六名勇士の英魂を迎えて、永久に慰め祀らんものと、村民総意の許にこの慰霊塔を建立した。

吾が父、吾が夫、吾が兄  
吾が弟、吾が子の御霊  
以て瞑せよ。

昭和四十年四月吉日

響いていました。あとで聞きましたが、里村時代は毎年4月に慰霊祭を行っていたようですが、ご遺族の高齢化が進み、薩摩川内市となった時から、特に何も行われなくなったとのことでした。時代の流れとはいえ、少し寂しい気持ちになりました。

今年の2月、令和3年度最後の里中校区学校運営協議会でこのことにふれ、学校が何かできないか考えたいと述べたところ、協議会の方からも賛意を得ることができました。 ↑

## 楽しかったね! 修学旅行

5月17日(火)～19日(木)の期間、5・6年生が修学旅行に行ってきました。今回も、中津小学校の5・6年生との合同の修学旅行となりました。依然として新型コロナウイルス感染症の影響もあり、計画通り実施できるか不安もありましたが、コロナ対策を十分講じた上で、予定通り実施することができました。1日目は、熊本城周辺を中心に見学し、2日目は、午前中、万田坑を見学の後、午後はグリーンランドで楽しみました。3日目は、鹿児島市内の歴史・文化施設を見学し、無事に日程を終えることができました。子供たちにとって、一生忘れることのない思い出になったことと思います。



## 7月行事

1日(金) 不審者対応訓練・ALT来校  
5日(火) EST来校

7日(木) かのこゆり号来校  
9日(土) 土曜授業日  
12日(火) 校内水泳大会・学級PTA  
18日(月) 海の日  
20日(水) 終業式・大掃除

そして今年度、7月9日(第2土曜日) 8:20～8:35 わずかな時間ではありますが、平和集会という形で、全児童、職員で一の段に上がり、コミ協から代表の方も参加して頂き、黙祷を捧げることとなりました。

碑に刻まれた名は、子供たちにとって近いところではきっと曾祖父、さらにはそのご兄弟にあたる方々なのではないかと思えます。できればご家庭でも刻まれた名のルーツをたどり、子供たちと先祖を偲ぶ機会としていただければと思います。

戦後77年私たちは戦争のない平和な時代を生きています。しかしながら日本が近代国家として形をなした前半は左の一覧を見てわかる通り、戦争の歴史でもあります。そこにプロパガンダ(意図をもって、特定の主義や思想に誘導する宣伝戦略)はなかったのか考えさせられます。未来を生きる子供たちには、多くのことをいろいろな角度から学び、ものごとを正しく見つめる力をつけ、明るい未来を拓いてほしい。碑に刻まれた名前からは、「私たちの分まで、子供たちのことをよろしく頼みましたよ。」という声が聞こえる気がするのです。

